

グローバルにいがた



2年ほど前に一般公開され、ニューヨーク(NY)の新たな観光名所として注目されている「ハイライン」。米国内で初めて「空中公園」として指定された新都市型空間です。新旧バランスの取れた開発コンセプトと限られた土地を有効利用したユニークな景観、そして不動産価値の急騰で注目されているエリアです。マンハッタンの西南、ハドソン川を望む南北約10ブロックが現在までに完成しています。

西洋では都市開発において、「憩い」のコンセプトが重要視されてきました。日本のように自然の中



田中 遊子さん

|| 新潟市秋葉区出身 ||

人に間の生活を置くのではなく、自然を制圧し人工的にその空間を確保してきたのです。ヨーロッパの厳しい気候に育まれた、自律精神の表れでしょう。

NYで有名な公園といえば、いわずと知れたセントラルパーク。南北4キロ、東西約800mの広大な

ばれる地区にあった精肉工場などへ、かつて物資を輸送するのに使われた高架貨物鉄道の線路跡を利用して建設されたウォークウェー

です。線路の取り壊しに反対した有志らが、独自の公園化プランを掲げ寄付金集めなどのPRを重ねた結果、政治家たちが賛同し構想

た雰囲気と再開発の勢いとが、ワイルドな魅力となり、雑誌やプロモーションビデオの撮影なども頻繁に行われています。

ちなみに、英語では、「公園」も「駐車」も同じパーク(park)という単語で表現されますが、これは、もともとヨーロッパでは、有事の際に軍隊(戦車)を整列させることも想定して、公園が建設されていたためという一説があります。

(田中さんはNYで執筆・メディア関係の仕事をしています)

新潟日報社の国際交流拠点NY事務所などを通じ、海外で暮らす本県関係者に毎月、現地の様子を紹介してもらいます。

哀愁漂う新都市型公園

人工公園です。かつて、混沌(こんとん)の様相を呈していたNYに、住民の憩いの場となるような空間が必要だと、造園家らが訴えた結果、1850年代に建設開始、70年代に完成しました。

ハイラインは、ミートパッキン

グ・エリア(食肉包装地区)と呼

は実現しました。
テーマは「哀愁」。レールが地面に埋め込まれるように残してあったり、沿道の花壇の仕切りとして利用されたりと、あえて「残骸」として際立たせる工夫がなされています。

工場や倉庫跡のどこか殺伐とし

from NY



高架貨物鉄道の廃線を利用したハイライン。「空中散歩」が楽しめるNYの人気スポット